

Kagaku To Kogyo (Osaka)

科 学 と 工 業

第96巻 第6号 2022年6月

目 次

講 演

“Be the best SPICE!” ～心踊る極上のスパイスを目指して～

新日本理化(株) 三浦 芳樹 … 143

解 説

CO₂ 分離回収技術開発の動向

(公財)地球環境産業技術研究機構 木下 朋大 … 155

(公財)地球環境産業技術研究機構 余語 克則

キーワード：二酸化炭素，分離回収技術，開発動向

解 説

水熱合成法による酸化物粒子の構造制御

熊本大学 橋新 剛 … 164

キーワード：水熱合成，酸化物半導体，結晶制御

解 説

材料表面の形状評価

(地独)大阪産業技術研究所 渡辺 充 … 171

キーワード：触針式プロファイラ，レーザー顕微鏡，原子間力顕微鏡(AFM)，表面形状，表面粗さ

大阪工研協会会報 …………… 178

Contents

【Lecture】

Growth Strategy of 100-Year Company

Yoshiki MIURA...143

【Review】

Recent Trends in the Development of CO₂ Capture Technologies

Tomohiro KINOSHITA, Katsunori YOGO...155

Structural Control of Oxide Particles by Hydrothermal Synthesis

Takeshi HASHISHIN...164

Evaluating the Surface Morphology of Materials

Mitsuru WATANABE...171

今月号のここがポイント！

本号では、2月に行われた新春講演会から新日本理化株式会社 社長・三浦様のご講演と、解説記事3件を掲載しています。

◎一つ目の解説記事では、二酸化炭素の排出削減が世界的に求められるなかで、大気中や排気ガス中の二酸化炭素を分離回収する技術について、近年の開発動向をわかりやすく紹介いただきました。

◎二つ目の解説記事では、結晶構造を制御した酸化タングステン粒子の水熱合成について紹介いただきました。二酸化窒素などへの高感度ガスセンサとしての応用が期待されます。

◎三つ目の解説記事では、材料表面の形状(粗さ・段差)を測定する3つの装置(AFM・触針式段差計・レーザー顕微鏡)について、それぞれの特徴と測定例を紹介いただきました。